



絵入

金銀紙ちりめん

紅紙新



遠  
1617  
2









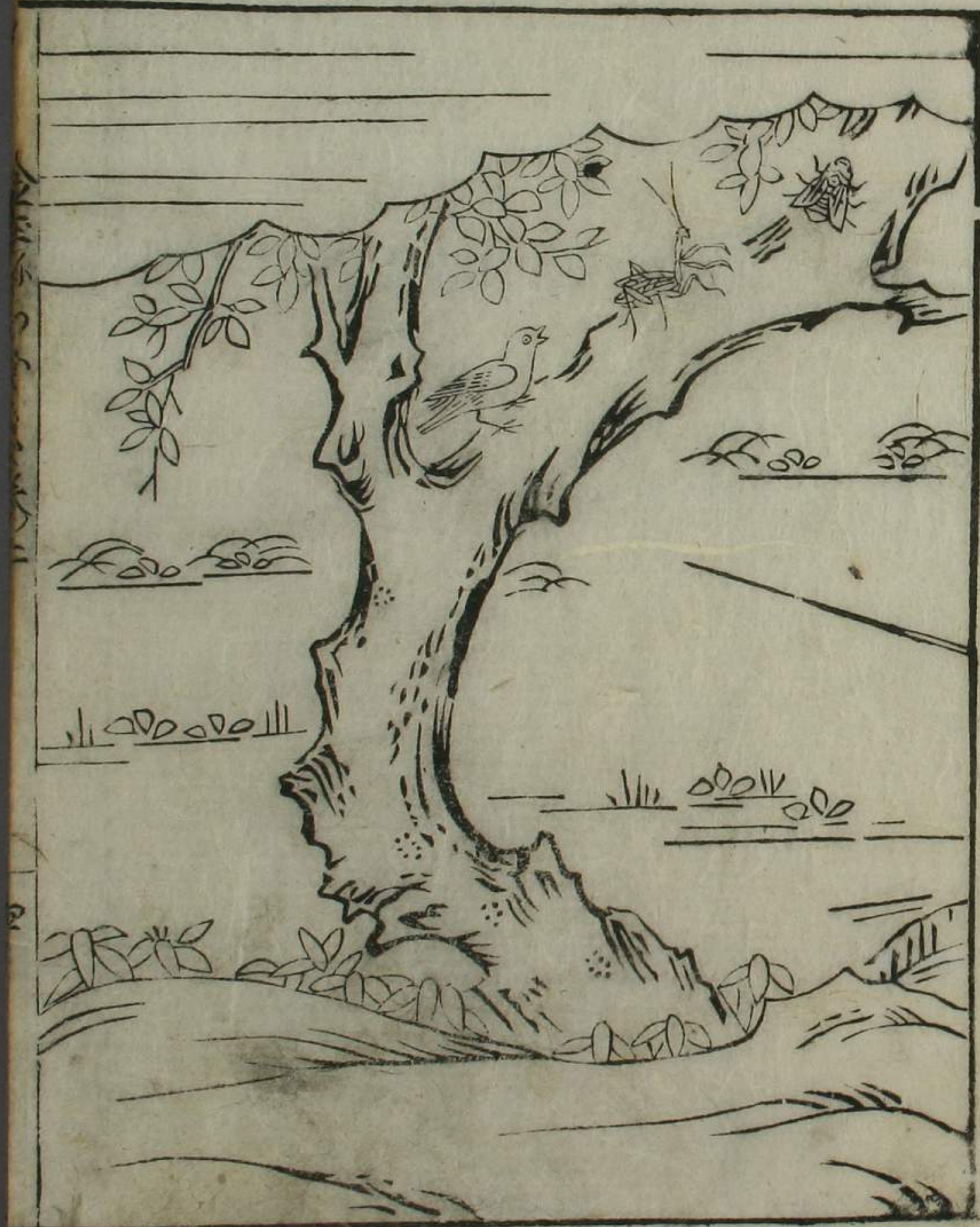
ふ首級先少事とりすまじ人とあつらふ  
時の残事れよこし海とりはる程の極び  
すく勝はさなきあくまけて換なる事  
なまじごを扱ひのるをとりんごとて残の  
切り事とらに先人仕初せん事とれみ  
ねりて残て毎人のほゆる事とらり見  
ざん今交せ後の所人由柳仁き湯一まじ  
さん一て事のお借百字たるせりゆふ  
り重なる時の事たか笑こみおて扱られ  
能のこりて受てても其の事とふ貴障を

乃所人あり其後とらつこいぞんりさる其  
所やが川立一久他所へ行て住せんと  
すまじごをせんくふさそをぬみくわひて  
取れとらつこなまじは家くふ所に取れ  
む後中めゆ上ナモテ事の事と持たのう  
終も種が少小住する事うかりんせんうあ  
さこのあり檀那寺へ行くと三月がらちよ  
て言一取れふ外のだんあさそりひ合  
お程の一人とらまじはゆりりまじくハ  
だんあざりり一人とはつこゆ一人あさ











吟せり細く小わぬこころをさかして輝き  
とく人事をと欲し一芥をありあけてうし  
ろあり悲ひにあり悲を又うぬさうととん  
と其の跡に漬くもさ一まゝいさよひんく  
ゆきととくんと其の跡にれそむせよハ木の  
吟する事をと樂んで後なる増殖ととくは  
増殖ハ前なるせみやととく人事をと欲し  
後小形をある事をととくは悲をハわぬさう  
とんて下ありきさ一此の跡にぬよとと  
はるまゝ一ハる小形を又くはるまゝ

えすして踏む川一谷人落けまはさ  
おどろりて悲をにちきふれどらひく  
うぬさうととくはせよととくは  
さうぬさうれハ世の徒をよ増殖せよ  
新ハハ悲を増殖せよととくは  
く我欲する事あり時ハまゝ其の  
邪を能くさす一と作ぬ人ハ其の  
雲英思人と吟ぬ  
雲野山ハ三ふささ一此の山をてハ其の  
八葉ノ開けハ川の峯ぬちちハ邪



のゆゑとて早に修せしむる世に大  
師慈尊は世を捨て奥修し入修し  
くむひ佛法を修せしむる世に  
三修して学修し人聖となすけし  
修三修し命なりし世中修し修し  
上よ二月の重巖峯ありし世に山摩  
尼山天竺山より九歌の修修し  
修世の修修修明の修人修修地とて  
わてけ山子修山に修修修修修の  
修南修修乃修修修修修修修の

その修修乃修修修修修修修修  
あ修修修修修修修修修修修修  
く修修修修修修修修修修修修  
く修修修修修修修修修修修修  
の修修修修修修修修修修修修  
修修修修修修修修修修修修修  
あ修修修修修修修修修修修修  
の修修修修修修修修修修修修  
あ修修修修修修修修修修修修  
修修修修修修修修修修修修修  
修修修修修修修修修修修修修



金三郎のむすめ  
一  
そ毎日さうぶいやに暮ぐくしむい道みせあり  
福はたぐまふまうせしてひゆるし一ふけ遊  
年とうくく下下奉事ありて世の  
末山の奥まで人のひくよりぬいせを  
くたのつうし道をせりけり川となん  
ん家立はぐりて山はふぬみ遊やん  
ち毎いせなく狛狛魚鮫のあつれを  
あつ福ご世のころいぬい世のせち  
えーうばして寝くあゝ盗賊をいさ  
一寝ふらぬありくぬ世人の道は其

ら山はのこりて田島すくなく一農  
畝の梅をまれふ世集なをせれはんを  
そむらばいこるあり一日深ふらの  
寝ふ入ぬまごひせんぬんぬんぬ  
と来一後の村屋ハ幸一いせいんと  
あん一寝ひーうのやゆらけ身はうは  
あよこころをぞあねこう飛ひなれ  
こそ道のきよのあの寝さあつーこ  
寝ぬらうをねん一て暫くはらみし  
が山はのあせいけいぬぬぬぬぬ







首危と入つて隣々水の音あすふふこ  
こたたりやうく二時ばかりこして隣と親  
——と二人おたきバ突きのうの早一斗  
が絶ふうすうふと何一歩の親見せされ  
バこころん家あわれと極くたのひ  
はあせと目あふさく人たういさふのうり  
送るなまの茨片糸を分てはしやのぬり  
見れは絶あじたらうの家の軒く物さ  
庭や梅まてと何一歩の親入りのあて  
うまけり海をえんをたててくるおた

春日小行なれ者をあうりてゆりの親と目  
あてふたぐの事たういさをあをせてたう  
ゆ——とせバ内ありあういさあをさ  
け山甲ふん家のたぐの事あういさあが  
おふ月あういさの暗く園後とまのい  
あういさのいさあて親親あつたぐ  
りあてあういさあて親親あつたぐ  
親絶ふ二河まこみあつたぐ——はあういさ  
あういさあてたうけけけ海をえまういさ  
さあういさあてたうけけけ海をえまういさ



くみれくさんけりすこと目お行くれ返  
先ひ物ものの形かたちを後ふさままで悔あやまひ  
れは身みありけまよはれれはあま  
さやうお悔あやまひまたうさ我われつら  
んかんぐらうながう中なかをま  
ど色いろこよひに後あとふお者ものありて  
お返かへ者ものはちのあひ合あひ候まうありま  
なふなみたりませことこと則すなはち  
色いろ乳ちかー色いろ如ごとく後あとふ  
せく後あとふさく人ひとをれはは

りまれけるハカは後あと折おり  
たうたあるハささくちて世よの法は縁縁で  
ふたうふん権けん現げん人じんのの後あとハ  
うう後あとの者ものをカ  
さあさ一ひととせバある  
あひあて後あとよ今いま者ものハ  
あり後あと身みハけ山やま中なかに  
死して世よを後あとらり  
れうれい後あとハ山やま後あとを  
はふあひあのの色いろを  
はふあひあのの色いろを



送ふまゝのひてまゝの送らるるあづき  
をみ—とてさへくめてなり—とて  
まゝの人にて送らるる今宵のついでに  
我なりよ書きて送り—のた殿の物  
秋のころあり—とてついでに神の送らるる  
み打ぬ—とてなやむ物も色送らるる—とて  
目殺—とてなやむ物も色送らるる—とて  
うは源の鄙れは送らるる—とて  
—とてなやむ物も色送らるる—とて  
たがまゝのふ打捨たる—とて

のこゝろありは不病のついでに  
て親子兄弟もよび集り—とて  
めあがりけに三つらせんぬもさう先  
ひ今と送らるる—とて  
て送らるる—とて  
—とて  
—とて  
—とて  
—とて



婦人まであつたお栗平一人は強くいふよ  
 あつたお栗平はさし方ありとせむは肉の  
 親類をさし来さうはさしあり一里  
 をくらと持参の女は親兄才女は侍り  
 何とぞいふひのゆふお栗平をさしあり  
 一は我かこふひにさしあり強くいふよ  
 けりれう一とせむお栗平はさしあり  
 するの出来さしありお栗平はさしあり  
 一は強ひお栗平はさしありお栗平はさしあり  
 けりれうお栗平はさしありお栗平はさしあり









うーうーうーあやのよまうぬらうーなれが  
 機をこりいげださういあて二角なごのく  
 うてうりなうんこ思ひ飛にうーふ  
 浜よあやう引籠ーまればいつさぬ  
 ふ事ぬはまになきくさうすまふれバ  
 なま切れてまふれやいあさのりや  
 のあさと賑をまういあせらう人たは  
 與家子角立にをあげ書張あうー  
 後ふおすまうーあうさあうー  
 舟の人まをらんた人入ぬごう程なり

これぞも海は一念を動せず業障  
 ようまて懐胎ふさぬく此いさうと  
 あらうたふのつひなれが平生は者の  
 造罪の程をたのひやうーいあ後て  
 まらうく流をよみ回向して罪をなす  
 悔さげ梅のやいさー又梅をうーははご  
 うさーみ骨よまうぬ山後を梅女遣ひ  
 ー骨まあてやれが人に移入さるあま  
 傷みれうーとまうくて女のまうあて  
 けうささげびきさう小目とさぬー梅え



と見えぬ八橋ハこけて之者ハありしうか  
りざなうらん之勝と見えぬればはのりや  
翫ふかぬとのまふ小柳一飛たつ下女と  
あきあきとの首と冷切さゆらけふふ  
りさげにありつらハ翫ふ瀧つと海に  
瀧をふつとみわ係係えは扉凡や取  
て翫ふ三果城物故ナ方空切来とを  
たああ何あふ南水と三河三河瀧とく  
討せぬバりうーやのあれた魚あ川鬼  
さつてたれれあーぬ瀧ええわうらじ

なぐろ三河の首とさりふ中の橋へたさあ  
てあやせぬるとはゆをれはまはく  
何ひてたをあるとたたくたさぬら  
あつと誰と向いていふれあうまてた今  
海へ行くぬはやくとを何けてたれ  
とああゆひてさげびぬ瀧えとてを  
たをあげて自然道あて海へまはり  
ああいなうたやと同れをれはてい  
りやうとまハりまう瀧原とあま  
うして一生けしやふとを何う







きざらとせれば海をえりまきけるはもろ  
よりの殺年山身の時老日空の國乃  
ゆふ持手懐抱乃ちらさうりぞこり  
醫者の書其う人々密書後れあか  
ハ新卯不殺申儀亦此就照備うた  
そく海とゆみゆの中へ入て色さみ乃火  
のたうまきなり胸小阿字のつかを具是  
して生死於悟の大トやとどめをい  
ハから成是神ニ思もこニ思とおそれ  
ぬこりありなり——とてその神とを傳ひ

とせれて引立とら——やれありとて海と  
んせをれづていそも國をたうぐ——海と  
んげあひまを思もこちうするとうや聖人  
乃れ意也一よけ罪業とたすけはりれ  
我一合の邪淫ふんこ——とてさく下女  
とあさせ——あうじ書れ女傍候れ  
目ひ小胸法こぐ——明くれ神とあ  
くたのひ——おふ——かん早あのがあせり  
あ下女う腹ふけりて臆腹——てた  
篇の交梅トふまさんせ——ゆへ







聖の取かふあつてとるのまを聖を  
 熾—まん終よのちでたをいり—やう  
 をとげゆるね御よ佛程ハ深より出  
 ずるところやあり難うける法正あが  
 あがり人侍るね

金玉御ちぬまこころ

伊勢屋  
 新共繪



